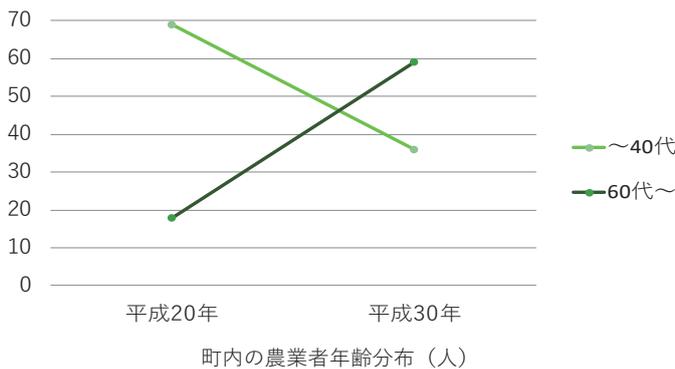
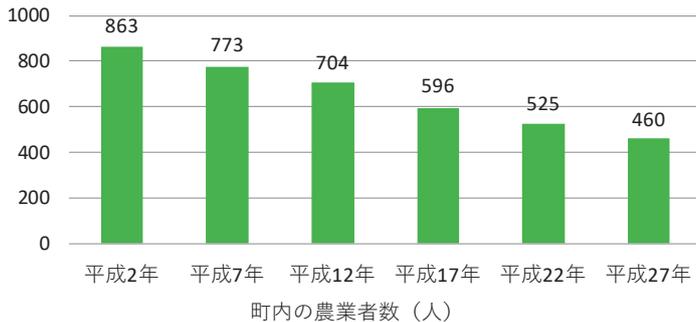


次世代へつなぐ農業

問 産業振興課農政係 ☎ 0943-32-1841

農業の現状・課題

資料：農林業センサス



梨・ぶどう・桃などの果物や八女茶、西日本一の生産量を誇るガーベラなど、農業が盛んな広川町。そんな広川町でも、農業人口の減少や高齢化による担い手不足が大きな問題となっています。過去25年間の町内の農業者数を比べると、その差は歴然です。生産農家は高齢化により減少。特に山間地域や農家が少ない集落では、ため池や農業

用水路の維持管理が難しくなり、耕作放棄地や遊休農地が増えています。そのほか経営や農作業にもさまざまな問題があります。茶は家庭での消費が減り、新たな販路開拓が必要です。イノシシなど、野生動物による農作物被害も増えています。これらの問題解決について、各機関からお話を伺いました。



JA ふくおか八女
広川地区理事代表
野中公彦

現在建設中の JA 広川地区センター内に、農産物直売所「どろや」を設置する予定です。JA ふくおか八女では、販売機能を充実させ、これまで以上に農家が作った安全安心な農産物を PR してまいります。また、農業生産の基盤を強化する事業を設立し、施設や農業機械の整備を支援しています。

山間地域の耕作が難しく、転用可能な農地は、山林に転用し水保全や災害防止に活用すべきだと思います。農業委員会では、農地の巡回・マッチングを行い、農地の荒廃化防止や保全に努めています。農地を貸したい人や規模を拡大したい農家はぜひご相談ください。



農業委員会会長
大石義勝



認定農業者
連絡協議会会長
永松悟

認定農業者連絡協議会では、新規就農者と合同研修会を開き、認定農業者との意見交換や視察研修などを行っています。研修会では、農業経営や病害虫対策など、毎回テーマを変えて行っています。今後もそれぞれの農業経営改善計画を達成するため、会員同士、切磋琢磨していきます。

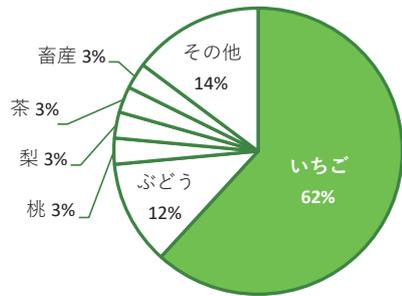
土地改良区では、農地、農道、水路などが今後も適正に維持管理されるよう、地域全体で花を植栽するなど、景観整備を行っています。イノシシによる被害を防ぐため、補助事業を活用して金網防護柵や電気柵を設置しています。また、猟友会に捕獲の協力をお願いしています。



土地改良区理事長
野田昭幸

新規就農者 インタビュー

町内で最も多く栽培されている作物「いちご」。
町外から広川町に定住し、いちごを栽培している2家族の新規就農者に、就農までの経緯や町の魅力、今後の展望など、お話を伺いました。



新規就農者の作物別就農状況（平成31年3月時点）



佐賀県鹿島市出身。福岡県農業大学を卒業後、JAふくおか八女就農支援センターでさらに1年間研修を積み、平成28年に広川町に就農。昨年10月に結婚し、夫婦でいちごを栽培している。

- Q.** 広川町に就農して良かったことは？
- A.** とにかく「人」があたたかいです。広川町に全くつながりのなかった私を、地域農家の皆さんがあたたかく迎え入れてくれました。今でもいろいろアドバイスしてもらい、仕事以外でも気遣っていただいています。大変ありがたいです。
- Q.** 就農したきっかけは？
- A.** サラリーマンとして働いていたとき、日本の食料問題や、就農者の高齢化について考えるようになった。そんなとき、親戚から農業大学校の話が聞きました。かなり悩みましたが、就農したい気持ちが強くなり、農業大学校への入学を決意しました。
- Q.** 今後の意気込みを！
- A.** 将来はぶどうなど、果樹の生産にも挑戦し、少しでも収益を増やして経営を安定させたいです。
- Q.** 広川町に就農して良かったことは？
- A.** 風がとてもお気に入りです。夫婦でゆったりとしたスローライフを楽しんでいます。
- Q.** 就農したきっかけは？
- A.** JAや県普及センター、町役場の各担当者の方が親身に相談ののって支援してくれました。親戚から農業大学校の話が聞きました。かなり悩みましたが、就農したい気持ちが強くなり、農業大学校への入学を決意しました。



- Q.** 広川町に就農して良かったことは？
- A.** 引越してきて2か月ですが、見ず知らずの私を地域農家の皆さんはあたたかく迎え入れてくれました。仕事以外でもとても気にかけていただいています。いろいろな新規就農支援が充実していること、JA、県普及センター、町役場の各担当者の方のサポートもとてもありがたいです。
- Q.** 今後の意気込みを！
- A.** まずは、今の作付面積をきちんと栽培できるように、将来は600坪まで規模を広げたいです。町の特産品である、ぶどうの生産にもいつか挑戦してみたいと考えています。
- Q.** 就農したきっかけは？
- A.** 以前東京で仕事をしていたときは、家族と向き合う時間がなかなか取れませんでした。退職した際、妻の「いちご農家になりたい」という言葉を聞き、次の人生は家族のために働こうと、就農を決意しました。
- Q.** 就農したきっかけは？
- A.** 広川町は、山や田んぼなどとても自然豊かなところが魅力だと思います。子どもたちも虫やカエルを見つけたら、以前暮らしていた東京ではできないような経験ができ、子育てにとっても適した環境だと思っています。



福岡県太宰府市出身。福岡県農業大学を卒業後、就農のため今年3月に家族5人で広川町に転入。現在は夫婦でいちごを栽培している。



農業を始めよう

農業を始めるには、施設・機械を導入するための資金や、専門技術・知識が必要です。

広川町、JA ふくおか八女では、各種補助事業や研修施設の紹介などを行い、新規就農者をサポートしています。就農後の悩みなどもお気軽にご相談ください。



資金 補助事業

研修計画や就農後の経営計画を立て、町・県から認定されると、支援を受けることができます。詳しくは、産業振興課農政係へご相談ください。

圃産業振興課農政係
☎ 0943-32-1841

対象	事業名	内容
研修段階・就農後	農業次世代人材投資事業費補助金	準備型：研修を受ける就農希望者に対して、最長2年間、年間最大150万円補助します 経営開始型：農業を始めてから経営が安定するまで最長5年間、年間最大150万円補助します
家賃	広川町新規就農者定住化促進事業補助金	「農業次世代人材投資事業費補助金」の給付を受け、町内に転入した新規就農者へ家賃の一部を補助します。
農業機械	青年就農等資金	機械や資材の購入など、農業経営に必要な資金を国が無利子で融資します。

研修 JA ふくおか八女就農支援センター 農業研修

JA ふくおか八女就農支援センターでは毎年、短期間で自立した新規就農者を育成する研修を行っています。今年も6月1日から第6期生の研修がスタート。1年間で農業・経営に関する知識や技術を学びます。

新たに就農を考えている人は、9月13日(日)の希望者向け説明会へお申し込みください。申込期限は8月31日(月)です。



- 7期生募集 -

- **資格** 研修終了後 JA ふくおか八女管内に居住し、農業経営するおおむね50歳以下の人
- **研修品目** いちご、トマト
- **研修内容** ハウス内での農作業・農業機械の実習、農業経営・栽培方法・計画などの座学
- **期間** 令和3年6月1日～令和4年5月31日
- **場所** JA ふくおか八女就農支援センター（八女市平田六反田495-1）
- **定員** 約5人
- **研修費** 無料（原則JA ふくおか八女が負担）
- **申込期間** 11月1日～12月末日
- **申込方法** JA ふくおか八女へお電話ください。

圃 JA ふくおか八女 ☎ 0943-23-1378